

広報用研究概要

代表者：大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学・准教授・二村圭祐

タイトル：腫瘍増悪化を惹起する選択的 RNA スプライシング特異的制御法の開発

癌細胞は、異常な選択的 RNA スプライシングによって正常細胞が持たないタンパク質を発現させることで治療抵抗性を獲得する。申請者らは最近、スプライシングを制御する SF3b 複合体の構成因子の 1 つ SF3B2 の発現増加によって去勢抵抗性前立腺癌、膀胱癌、肺腺癌、乳癌、頭頸部腫瘍、AML の 6 種類のがんで予後が増悪化することを見出した。本研究は、この知見を基に、SF3B2 が主導する癌を増悪化する選択的スプライシングのみを阻害する手法を開発することを目的とする。